

第4号

与謝野晶子通信

潮の遠鳴り



文化学院蔵

見事な人生謳歌

与謝野晶子倶楽部副会長 九つみ 都志



八十歳過ぎの知り合いと四年ぶりにお茶して顔を叩かれたような気がした。

と古く交友関係から抜け出して、今は日本中の「友人」とSNSでつながっているという。一昨年「短歌集」を上梓して、今年正月に第二集を出した。短歌は七十歳後半、近所の国立大学の短歌同好会で、大学生にまじって詠み始めた。コロナでその集まりもなくなり、家でコツコツ詠んだ歌がたまって、上梓。派閥に属さず、Twitterにのみ投稿。一首詠むごとに、何百人が「いね」を返してくれたり、コメントをくれるという。...

与謝野晶子倶楽部紹介

与謝野晶子倶楽部は全国の晶子研究者や歌人、愛好者などで、平成9年に堺市で創設されました。堺に生まれた与謝野晶子の業績、生き方について広く市内外に発信し、与謝野晶子の顕彰事業を行っています。さかい利晶の社を中心に、晶子フォーラムや晶子入門講座、短歌セミナーなど分かりやすい講座を開催していますので、ぜひお気軽にご参加ください。

与謝野家のルーツ 礼蔵と京都

与謝野晶子倶楽部運営委員 古澤 夕起子



明治四三年、与謝野鉄幹は父礼蔵の十三回忌の記念に『礼蔵法師歌集』を編み、明治書院から刊行しました。

鉄幹の序文「礼蔵法師歌集の初にしておく文」には、文政六年（一八二三）、丹後国与謝郡に生まれてから、明治三年（一八七八）、七十六歳の天寿を全うするまでの礼蔵の経歴がかなり脚色され、誇張されて記されています。以下京都関連を摘記すると、三十五歳の頃に岡崎村の願成寺を西本願寺の支坊とし、若き日の西郷隆盛や大久保利通と交り、伏見鳥羽の戦いでは巨額の軍資を調達し、北越地方で尊皇報仏のために活躍。明治二年、京都に戻り、明石博高と共に舎密（化学のこと）局を開設し、府下の諸鉱山を巡回。金閣寺、銀閣寺の住職らと共に「療病院」を建て、その名も礼蔵の命名である。また府知事に勧めて仙洞御所で博覧会を開き、円山公園に鉢泉場を開いて衛生思想を広めた。しかし明治一二年、「清廉無欲にして極端に公益をのみ思ふ急進空想の人なる父」は負債を抱え、寺を競売に付して鹿兒島本願寺へ赴いた……。



与謝野家の墓 大谷本願墓地(京都市)

エリアは維新後の京都を映し出す場所でした。幕末の岡崎エリアには、金戒光明寺に本陣を置いた会津藩などの藩邸が林立していましたが、遷都後は農地に戻り、明治の半ばに琵琶湖疏水が開削されたことで内国勸業博覧会などのイベントスペースへと変貌して行きます。一方、木屋町二条エリアは、長州藩邸跡の府立勸業課を中心に、府営の舎密局、製靴場、織工場、理化学器械製造所（現島津製作所）、権知事榎村正直邸が並び、榎村に拔擢された明石博高を中心に京都の近代化を推し進めていきました。遷都後、寂れる一方だった当時の京都を何とか再生させようとした人たちは、明石博高や礼蔵の尽力が報われることはありませんでした。鉄幹の序文は、そうした人たちの集合体として「礼蔵」を描き出したと読めばどうでしょうか。 ※『礼蔵法師歌集』は国会図書館デジタルコレクションで、どなたでも読むことができます。

各部会からの活動報告とお知らせ

企画・普及部会

松永 直子

秋には京都・滋賀方面への文学踏査を計画しています。与謝野晶子が訳した『源氏物語』・紫式部ゆかりの旧跡を巡り、研鑽を深めます。貸し切りバスを利用し、交流と親睦も兼ねています。どうぞ、ご参加ください。

組織拡充部会

城本 多鶴子

会員拡大について、現在の会員制度を見直しより入会しやすい形で会員として参加できる方法案を提案し、只今、運営委員会等で検討しています。2024年5月頃には詳細をお知らせできる予定です。団体会員・個人会員等入会していただけるリストを作成し、積極的に呼びかけをつづけています。

調査研究部会

太田 登

令和5年度は、関東大震災100年を記念した春の企画展「災害をのりこえる晶子の意志」、秋の企画展「生誕150年与謝野鉄幹」に協力しました。共同研究の成果は、年度末に発行の報告書をご期待ください。

編集部会

太田 登

機関誌の第23号は、「晶子と関東大震災」を特集しました。次号から「短歌の広場」をより親しみのあるコーナーにしたいと思っておりますので、投稿をお待ちしています。「北から南」の情報提供もよろしくお願いいたします。

運営調整部会

岸 典子

当部会は、利晶の社の運営に関して各団体との情報共有が仕事です。報告を受けると共に6月から9月にかけての「与謝野晶子 青春の短歌大会」の全国の高校への呼びかけから始まり、多数の応募をうけて、9月より翌年1月の表彰までの過程も報告致しました。

晶子フォーラム2024のお知らせ

【晶子フォーラム2024】～「君死にたまふことなかれ」120年のいま、晶子と啄木に学ぶこと～

(主催:与謝野晶子倶楽部、国際啄木学会 共催:さかい利晶の社)

日時:令和6年5月25日(土)13:20～16:40 ※開場:13:00

会場:フェニーチェ堺 小ホール

参加費:一般1,000円、与謝野晶子倶楽部会員500円、学生無料

- 内容:第I部 13:20～13:25 開会挨拶 13:30～14:15 朗読と合唱「晶子と啄木の詩歌をうたう」朗読:若谷佳美 合唱(出演:泉陽高校音楽部、ヴォーチェ・コン・カローレ、Chor.Draft、コールいづみ有志、齊藤正浩氏門下生等) ※ウクライナ語の朗読の後に「君死にたまふことなかれ」の大会唱
第II部 講演とシンポジウム 14:30～16:40 14:30～15:00 太田登:基調講演「晶子と啄木におけるトルストイ体験」シンポジウム「時代を超える晶子と啄木」発表者:池田功、松平聖子、田口道昭 司会:たつみ都志
第III部 16:35～16:40 閉会挨拶 交流会 日時 令和6年5月25日(土)17:30～19:30 会場 ホテルサンプラザ堺アネックス 定員:70名 参加費 6,000円～7,000円程度

【研究発表会】

日時:令和6年5月26日(日)9:00～11:50

会場:さかい利晶の社1階茶室

9:00～10:00 さかい利晶の社 企画展自由観覧

10:10～11:50 古澤夕起子、阿部愛美、田山泰三

※全体の総括と閉会挨拶、終了後現地解散

【ギャラリー展「アートで彩る晶子の姿」】

会期:令和6年5月18日(土)～6月16日(日)の30日間 ただし、華道は5月18日(土)～19日(日)の2日間

会場:さかい利晶の社 2階企画展示室半室、1階茶室 ほか

内容:晶子倶楽部会員によるギャラリー展

観覧料:一般300円、高校生200円、中学生以下無料

(専用ハガキをお持ちの方は無料)

◆その他行事予定

- ・「晶子入門講座」[短歌を楽しむセミナー(4回連続講座)]9月～12月にかけて開催。
・1泊文学踏査は、令和6年秋に京都・滋賀へ予定
・第5回さかい与謝野晶子青春の短歌大会 令和6年6月3日(月)から募集開始
詳しくは、4月以降「与謝野晶子倶楽部」または「さかい利晶の社」のホームページをご覧ください。

倶楽部からのお知らせ

投稿募集! 「あなたの晶子物語」を教えてください。全国の会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

・与謝野晶子倶楽部では、一筆箋などの晶子グッズ、機関誌、歌碑巡りなどの書籍の販売をしております。商品詳細はホームページをご覧ください。倶楽部ご入会につきましては、事務局までお問合せください。
・「潮の遠鳴り」へ投稿していただいた方に、抽選で晶子グッズをプレゼントします。



●新刊情報



「与謝野晶子 愛と理性の言葉」 松村 由利子 編訳

編集後記

令和5年度は、あまり多くの投稿をいただけませんでした。次号では、ハートフルなお手紙がたくさん事務局に届くのを心待ちにしています。令和6年度の本倶楽部の年間テーマは、「君死にたまふことなかれ」です。5月25日(土)・26日(日)の晶子フォーラム2024をはじめ様々な事業を開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

問合せ先 与謝野晶子倶楽部事務局 〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3番1号堺市文化課内 TEL:072-228-7143 FAX:072-228-8174 MAIL:info@yosanoakiko-club.com HP:http://www.yosanoakiko-club.com

与謝野晶子通信 第4号 編集・発行:与謝野晶子倶楽部 運営委員会



与謝野晶子倶楽部事業紹介

文学踏査 令和5年10月25日(水)

たつみ都志先生と行く、ときめく源氏物語の旅
宇治十帖の舞台を訪ねて

丸野 幸子

行程 堺市役所出発↓JR大阪駅桜橋口↓源氏物語ミュージアム↓さわらびの道ウォーク↓宇治川遊船で舟内昼食↓平等院拝観↓帰路へ



昨秋、宇治へ一日文学踏査に出かけました。宇治へと向かうバスの中で、たつみ都志先生がペーパーサートも使いながら宇治十帖のストーリーを分かりやすく解説。薫、匂宮、大君、中の君、浮舟、それぞれのラブロマンスをわくわくときどきしながら聞き、この

日の旅への期待がふくらみました。ミュージアムでは、六条院の復元模型や牛車の展示、宇治十帖の世界が描かれた映像などを興味深く見学しました。ちなみにたつみ先生に「源氏物語に登場する女性で心惹かれるのは？」とかがうと「晩年が幸せな明石の君かな。」とのことでした。その後、晶子の歌碑や宇治上神社のあるさわらびの道をめぐり、宇治川の渡船場へ向かいました。楓の枝先が色づき始めた道に、木漏れ日は暖かく心地よいウォークを楽しみました。宇治川遊船の舟上昼食では「ビールがあったらなあ」という声もどこからか聞こえ、初対面の方とも和気藹々の一時間があつと言う間に過ぎました。平等院では宇治の歴史を学芸員の方に教えていただいた後、ミュージアム「鳳翔館」へ。極楽を想わせる雲中供養菩薩像などの宝物を見学しました。

爽やかな好天の下、一行二十四名が参加、楽しくかつ学びの多い一日を過ごすことができました。

晶子入門講座 会場・さかい利晶の杜

■第1回晶子入門講座 講師：外山 安龍
日時：令和5年9月17日(日)
テーマ：「晶子と蕪村」

■第2回晶子入門講座 講師：たつみ 都志
日時：令和5年11月12日(日)
テーマ：「女は七変化〜晶子と紫式部〜」

■第3回晶子入門講座 講師：古澤 夕起子
日時：令和5年11月18日(土)
テーマ：「与謝野家のルーツ礼殿と京都一生涯2000年を記念して」

参加者の声

第1回 「晶子と蕪村」に参加して

釜田 洋子

外山安龍先生の講座に参加して感じたことは、先生の補助の方が、晶子と蕪村の句を交互に詠まれ、とても新鮮に感じました。

更に、先生が朝摘みされた草花が机上に添えられすばらしい演出でした。また、満員の会場の中、感想を投げかけられたりして、会場が一体となり緊張の一瞬も味わいました。

私は蕪村の「菜の花や月は東に日は西に」と晶子の「住の江や和泉の街の七まぢの鍛冶の音きく菜の花の路」を通して、両者の句や歌から月と日と菜の花が黄金色に輝いていた当時の堺の町の繁栄が伝わってきます。

第2回

「女は七変化〜晶子と紫式部〜」に参加して

ジーン・ゴードン・コシエンダ

私は、与謝野晶子についての小説を書いていきます。小説を書く際には、晶子と紫式部の人生を

『白桜忌』の定着をふり返る

吹田市 川内 通生

ともかくも発足した『白桜忌』席上での記念講演は、高名な与謝野晶子研究家の入江春行先生をはじめ、色々な分野にかかわる発起人会の構成メンバーの諸氏が担当するうちに数回を過ぎることとなった。そのうち、しだいに、そうしたメンバー以外の、全国の学者・研究家のお人たちが講演を担当して下さることとなった。同時に、講演内容も晶子その人に限定されるというより、幅広く、関連した学者たちやその事蹟にかかわるものとなっていく。

寛政寺本堂での『白桜忌』の散会後、講師や発起人会のメンバー、そしてご参拝の市民の皆様とが話しよになって、大仙公園あたりまで、途中、晶子や『白桜忌』のことなどを話題にして散策する、いわば「晶子ウォーク」もけっこう、評判良く、『白桜忌』のファクターの一つとなっていく。

私自身は、平成19年の『白桜忌』で、『与謝野晶子の足跡への贈目』というタイトルで、再度、講演を担当したが、その折は「白桜忌・奉讃会式」という呼称となっていた。呼称の変遷しだいについては、深くは知らない。

企画展

「生誕150年 与謝野鉄幹」

令和5年11月18日(土)〜令和6年1月14日(日)

与謝野鉄幹(本名、寛)生誕150年を記念し、鉄幹の知られざる業績と、生涯にわたって持ち続けた文学への探究と情熱を紹介する企画展を開催いたしました。

鉄幹は、京都の岡崎にある願成寺に生まれました。二十歳で上京した鉄幹は、旧派の和歌を批判し近代短歌の革新を成し遂げました。明治33年(1900)には文学美術雑誌『明星』を刊行して、与謝野晶子をはじめとする若い歌人たちの才能を開花させました。この頃に用いたのが老梅の幹という意味である「鉄幹」という雅号でした。

その後、鉄幹は歌壇の中心からはずれ、妻の晶子の方が世の中に求められていきます。苦悩する日々の中でも、鉄幹は作歌だけにとどまらず、日本語の語源研究や古典文学の普及

共に理解することが大変重要だと分かりました。たつみ先生の講義では、私が気づかなかつた多くの2人の類似点にスポットライトが当てられていました。例えば、晶子も紫式部も思春期に漢文の素養を持った父親の影響を受けていること、さらには、2人とも自立しなければいけない環境にあったことです。私は、日本の女性が1000年以上前からずっと小説の世界で活躍してきたことをとても嬉しく思います。

第3回

さかい利晶の杜との縁

宮田文子

平成二十八年頃、「与謝野晶子講座」に出合い、「堺出身?」「エエッ」翌日車を走らせ利晶の杜へ。そして、この度は、尼崎市↓阪急電車↓地下鉄↓南海と乗り継いで十一月に二回「晶子入門講座」に出席、価値あるお話をお聴きできました。四月からの企画・講座のお知らせを楽しみにしています。

短歌を楽しむセミナー

会場・さかい利晶の杜

実際に短歌作りをしながら、楽しく短歌の世界を学ぶ、小西美根子講師による全4回(9〜12月)連続講座です。

参加者の声

神崎 利佳

小西美根子先生が会長をされる堺歌人クラブに入会し短歌を始め一年余になります。

平素より小西先生のお人柄をお慕いしておりますので、本セミナーは是非にと近くに住まう八二歳の母も誘い、毎月二人で楽しみに参加しました。

セミナーでは短歌を基本から順を追って教えてくださいますから安心ですし、作った短歌の鑑賞と添削もあり、楽しく充実した時間をいただくことができました。

朗読を楽しむ

さかい利晶の杜リリーディング

与謝野晶子朗読サークル×劇団ステイックシアター堺

令和6年1月21日(日)

与謝野晶子の著作を気軽に楽しんでほしいという思いから始まった「与謝野晶子朗読サークル」11月から発表会に向けて練習を重ねてきました。今回は「朗読を楽しむ」と題し、朗読サークルの発表だけでなく、堺市を拠点に活動するアマチュア劇団の朗読公演も行いました。

朗読サークルの発表会では、与謝野晶子の著作である『私の生い立ち』や童話、開催中の展覧会と絡め堺市出身の銅版画家 安井寿磨子作『ほじよりん工場』のすまこちゃん』の朗読を行いました。



観覧されたお客様も、朗読を通じて表現の世界に触れていただけの機会となりました。

など、文学史において重要な活動を行っていたことはあまり知られていません。

本企画展では、鉄幹の弟子で友人の渡邊湖畔(新潟県佐渡の実業家)のもとに遺された貴重な資料の数々を、渡辺家の特別なご協力によりお借りし展示しました。



なお本企画展は、令和5年度堺市博物館・与謝野晶子倶楽部共同調査研究会の成果を反映しています。

第4回 さかい与謝野晶子 青春の短歌大会

高校生を対象とした「さかい与謝野晶子青春の短歌大会」も4回目を迎え、全国53高校から10,599首の応募をいただきました。入賞者の作品を紹介します。選者(歌人・宮中歌会始選者) 今野 寿美氏 大賞 桐壺とモル計算の問題が飛び交う文理混合クラス 中島 優画(京都府・大谷高等学校) 与謝野晶子倶楽部賞 頭の上を赤信号でも進む雲私の知らない世界を知ってる 野口 彩花(長野県・松商学園高等学校) 堺歌人クラブ賞 ジュクセンセイガラスのハートにヒビ入るその呼びかたは私に似合わせ 戸塚 椎菜(静岡県立浜松湖南高等学校) さかい利晶の杜賞 ただ一人太平洋で発生しいつも暴れる台風だった 木元 宏大(大阪府立鳳高等学校) 堺市長賞 誰々の次男と彫った石碑には名すら残らぬ一つの命 川原 大悟(愛知県立津島高等学校) 堺市教育長賞 描いた絵よりも私が好きなのはどんと染まる白いパレット 平間 柚季(大阪府立いちりつ高等学校) 大阪府知事賞 誰もいない放課後一人教室でそっと座ろうあなたの夢に 岡崎 光夏(大阪府立富田林高等学校) 与謝野町長賞 本当は海を見ずとも知っている必要なのは飛び込むことだと 中井 莉乃(大阪府・羽衣学園高等学校) 大阪府立泉陽高等学校賞 瞳に映る全ての物が澄んでいてガラスのような何気ない日々 岡上 晴香(大阪府立泉北高等学校) 産経新聞社賞 どこまでも続くと思う水平線僕の世界はまだ狭いのだ 吉村 はるね(大阪府立いちりつ高等学校) 選者賞 放課後の補習を「バビロン捕囚」と言う世界史教師はひそかにモテて 野口 遙菜(群馬県・伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校) ファインシヨンのヒーローたちにはなれないがリアルを生きるぼくはぼくだけ 長瀬 快樹(京都府立嵯峨野高等学校) 夏の海夕日がつくる長い道だれか遠くへ連れ去ってくれ 竹本 梨夏(大阪府・関西大倉高等学校) 最優秀校賞 大阪府立いちりつ高等学校 詳しくは「与謝野晶子倶楽部ホームページ」の掲載の選歌集をご覧ください。

